

研究室で過ごした日々

鈴木 晴

2018 年 3 月までセンターに在籍しました鈴木晴です。2016 年 4 月から 2 年間お世話になりました。この滞在記を書くのは 6 年ぶり 2 回目になります。

私は、前センター長の稲葉先生の下で博士号を取得させていただき、その後 1 年間、本センターで学振特別研究員を務めてから、2012 年 4 月に理化学研究所に移りました。こちらではテラヘルツ分光法という低周波数領域の振動分光法を使った研究に従事しました。4 年が過ぎて次のポストを探していたときに、大阪大学カデットプログラムの専任教員に応募してはどうかとお声がけいただき、幸いにして採用していただいて大阪大学に復帰することになりました。カデットプログラムとは、博士号取得を目指す大学院生のための大学院教育プログラムで、自分の専門に特化するだけでなく、様々な分野でトレーニングを積んで、視野の広い次世代リーダーとして活躍できるように支援することを大きな目標に掲げています。昨年度まで中澤研究室に所属していた今城さん(現・東京大学)は、このプログラムの 1 期生であり、まさに次世代リーダーにふさわしい大活躍でした。私は「若手メンター」と呼ばれる特任助教のポジションをいただき、プログラム履修生の皆さんの活動を下支えするサポート役として応援してきました。このポジションでは教育活動に専念することを求められたため、別途研究を行うポジションが必要であろうと中澤センター長および中野先生にご配慮いただき、本センターの招聘研究員という身分をいただき、2 年間研究を続けさせていただきました。

懐かしい顔ぶれとの再会が多い中で、今回の滞在では、特に印象に残る三つの出会い(再会)がありました。1 番目は中野先生との出会い(再会?)です。いつも笑顔で格式張らない中野先生のスタイルは、センター全体がほっこり明るくなるのに一役を買っていました。とりわけ科学の話が大好きで、1 質問すると 10 返ってくるスタイルは、一緒に研究をさせていただく身として、この上ない贅沢でした。同じ物事を考えていても、見る角度や入口が全く違うので、他愛のない会話からも学ぶことが沢山ありました。2 番目は松尾先生との再会です。松尾先生は、ゴムの力学熱量効果の議論のためにしばしばセンターを訪れられ、その機会に、熱量計の基本設計から細かい工作技法まで、ご自身のもつ幅広い知識を惜しみなく分けて頂きました。私はもともと手先が不器用で、装置作製や電子回路工作などは苦手意識から避けてきたのですが、この 2 年間で装置作製に対して(少しではありますが)自信をもてるようになりました。3 番目は特任研究員として滞在されている堀井さんとの出会いです。堀井さんには、これまた私が大変苦手としていた合成実験のイロハを丁寧に教えていただきました。また、軽いフットワークで新しい課題に果敢に挑戦する姿勢からも多くのことを学ばせていただきました。

さて、私は 2018 年 4 月より近畿大学理工学部(理学科化学コース)でお世話になっております。講師というポジションを頂き、新しい研究室の立ち上げに悪戦苦闘する日々が続いています。センターの皆さまには、様々な場面で多大なるサポートを頂いております。ここに深く御礼申し上げます。一日でも早く、一人前の研究室になれるように今後とも精進していく所存です。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、センターの益々の発展を祈念いたします。